



株式会社オプトラン
**2019年12月期 第1四半期
決算説明資料**

2019年5月13日

I. 2019年12月期 第1四半期 決算概要 **P 2**

II. Appendix **P 8**

I. 2019年12月期 第1四半期 決算の概要

- 決算ハイライト（連結）
- 受注高・受注残高（四半期推移）
- 分野別売上構成
- 営業利益（四半期推移）
- 財務の状況

決算ハイライト（連結）



業績は大幅伸長

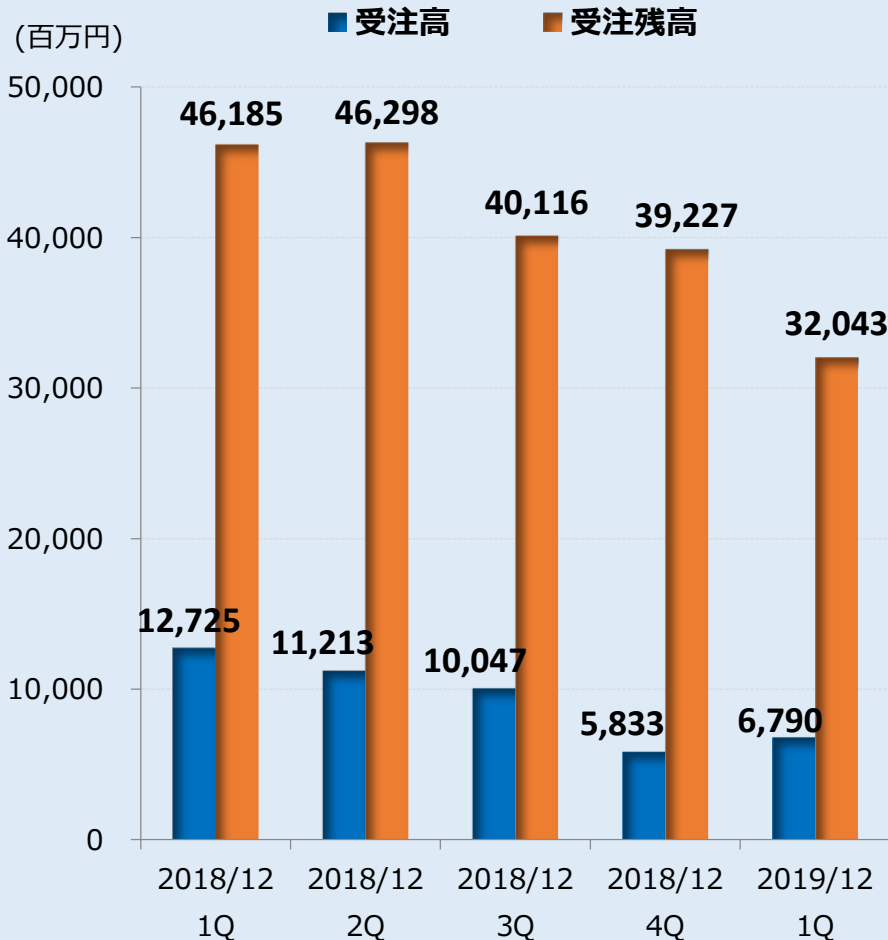
- スマートフォンは北米系売上高が多いが、中国系の新規受注分売上高も貢献。
- カメラレンズ（監視カメラ）、IoT（生体認証・車載・半導体等）、LED向けも売上堅調。
- 米中貿易摩擦等の影響により、顧客の発注の先送りが顕著であったが、足元は改善の兆しあり。
- 短納期を求める顧客が増加し、きめ細かなコンタクトが必要な状況。
- 2019年業績予想比、1Q達成率は、経常利益36%・純利益43%

(百万円)

	2018年12月期 1Q	2019年12月期 1Q	前年同期比
売上高	10,710	13,975	+30.5%
営業利益	3,263	4,126	+26.4%
(営業利益率)	30.5	29.5	—
経常利益	3,426	4,110	+20.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,381	3,605	+51.4%
研究開発費	829	739	△10.8%

受注高・受注残高（四半期推移）

受注高・受注残高の推移

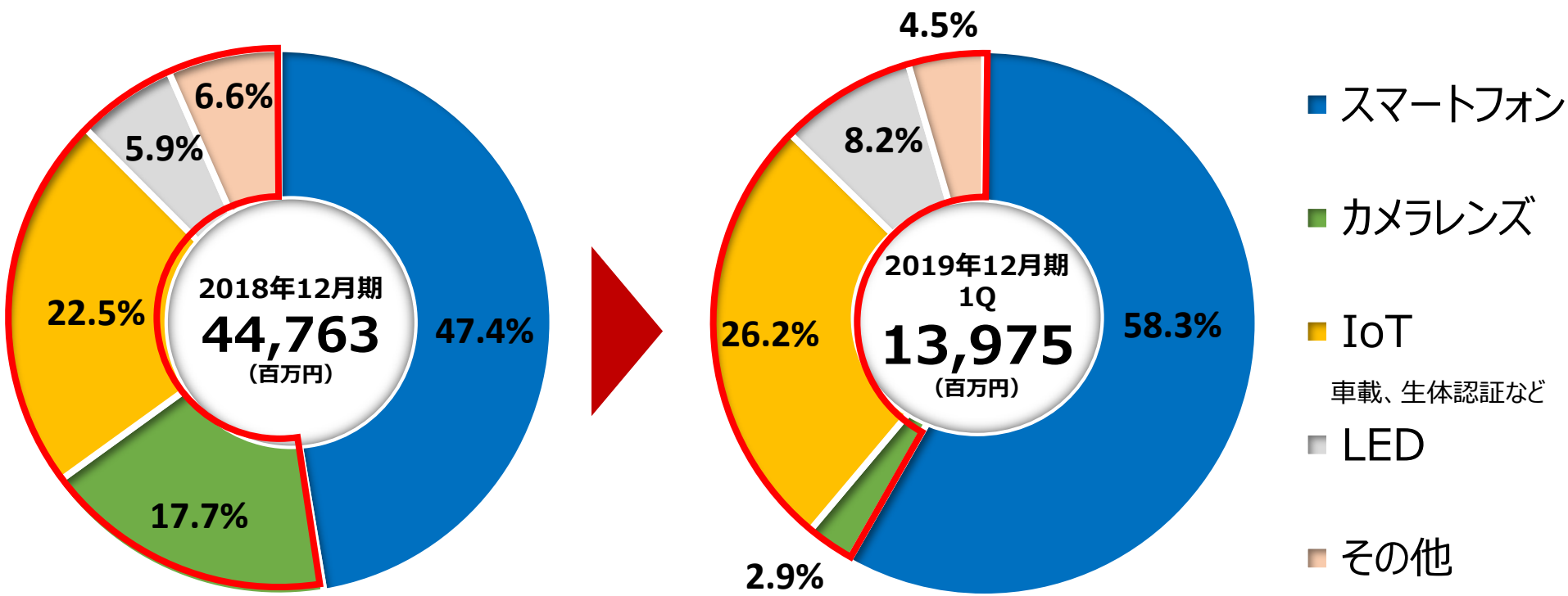


<2019年・1Q受注高>

- 米中貿易摩擦の影響があるが、改善の兆し有り。
- 受注構成はスパッタ装置5割、蒸着装置4割。新型装置の受注は10%程度。
- スマートフォンでは、中国・韓国等東アジアからの受注が回復傾向。3D・筐体バックガラス成膜装置の受注堅調。
- カメラレンズでは、中国の監視カメラメーカーから高機能成膜装置の受注堅調。
- IoT（車載・生体認証・半導体）やLEDでも受注を確保。

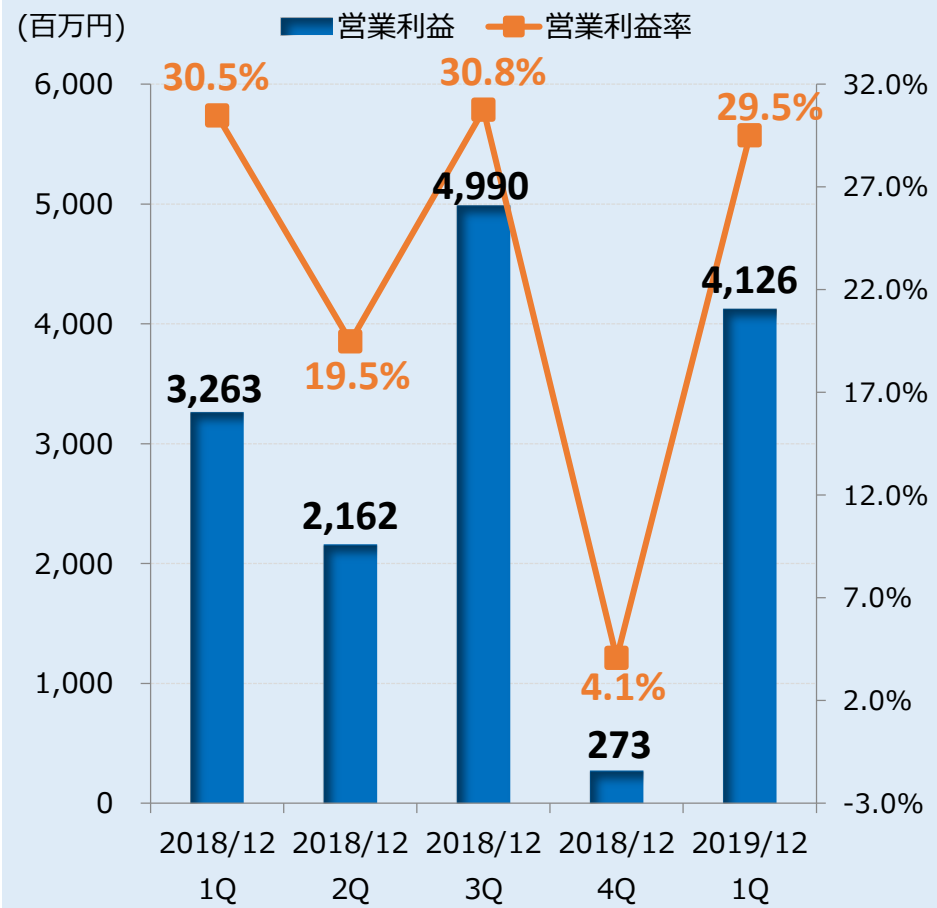
分野別売上構成

- 1Qは、スマートフォンで北米に加え、中国系の新規受注分の売上計上。IoT、LEDが堅調。
- 中国系は短納期・価格下げ要求が強い。
- 新型開発装置の量産レベルでの技術完成と本格的マーケティングに取り組んで行く。



営業利益（四半期推移）

営業利益の推移



<2019年・1Q営業利益>

- 営業利益率は29.5%と高水準
- 原価率はやや上昇（前年同期比+4.2%）
- 売上高増に伴い、販管費率ダウン（前年同期比・△3.2%）。
- 連結原価率は57.5%であり、引き続き良好。

財務の状況



(百万円)

	2018年12月末		2019年3月末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	48,142	86.5%	45,308	84.6%	△2,834
現金・預金	15,740	28.3%	17,664	33.0%	+1,923
受取手形・売掛金	6,837	12.3%	8,680	16.2%	+1,843
棚卸資産	24,487	44.0%	18,476	34.5%	△6,011
貸倒引当金	△420	△0.8%	△399	△0.7%	20
その他	1,497	2.7%	886	1.7%	△610
固定資産	7,501	13.5%	8,235	15.4%	+734
資産合計	55,644	100.0%	53,543	100.0%	△2,100
流動負債	25,922	46.6%	21,944	41.0%	△3,977
支払手形・買掛金	1,652	3.0%	1,412	2.6%	△239
短期有利子負債	756	1.4%	756	1.4%	+0
未払法人税	1,143	2.1%	576	1.1%	△566
前受金	20,108	36.1%	17,212	32.1%	△2,896
その他	2,261	4.1%	1,986	3.7%	△274
固定負債	1,658	3.0%	1,812	3.4%	+153
長期有利子負債	233	0.4%	230	0.4%	△3
その他	1,425	2.6%	1,581	3.0%	+156
負債合計	27,581	49.6%	23,757	44.4%	△3,824
純資産合計	28,062	50.4%	29,786	55.6%	+1,724
負債純資産合計	55,644	100.0%	53,543	100.0%	△2,100

・売上増により、棚卸資産の減少

・売上計上により、前受金の減少

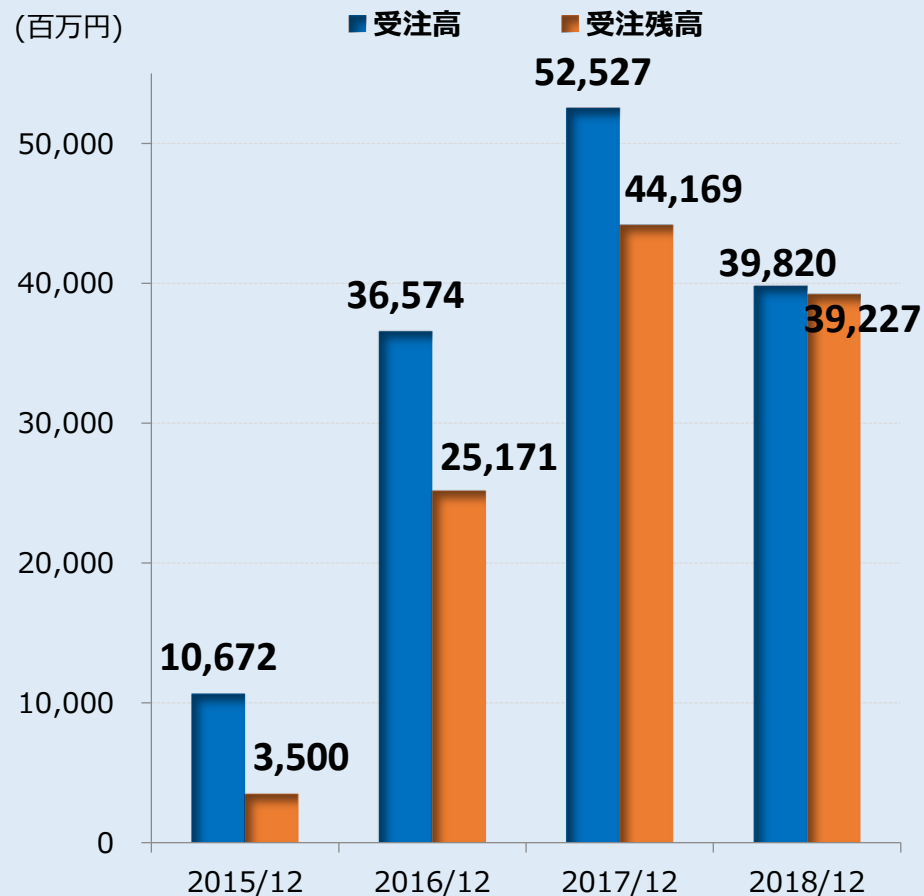
II. Appendix

- 受注高・受注残高/売上高（年間推移）
- 営業利益/研究開発費（年間推移）
- CFの状況
- 2019年12月期 業績予想
- 事業の課題
- 株主還元 配当

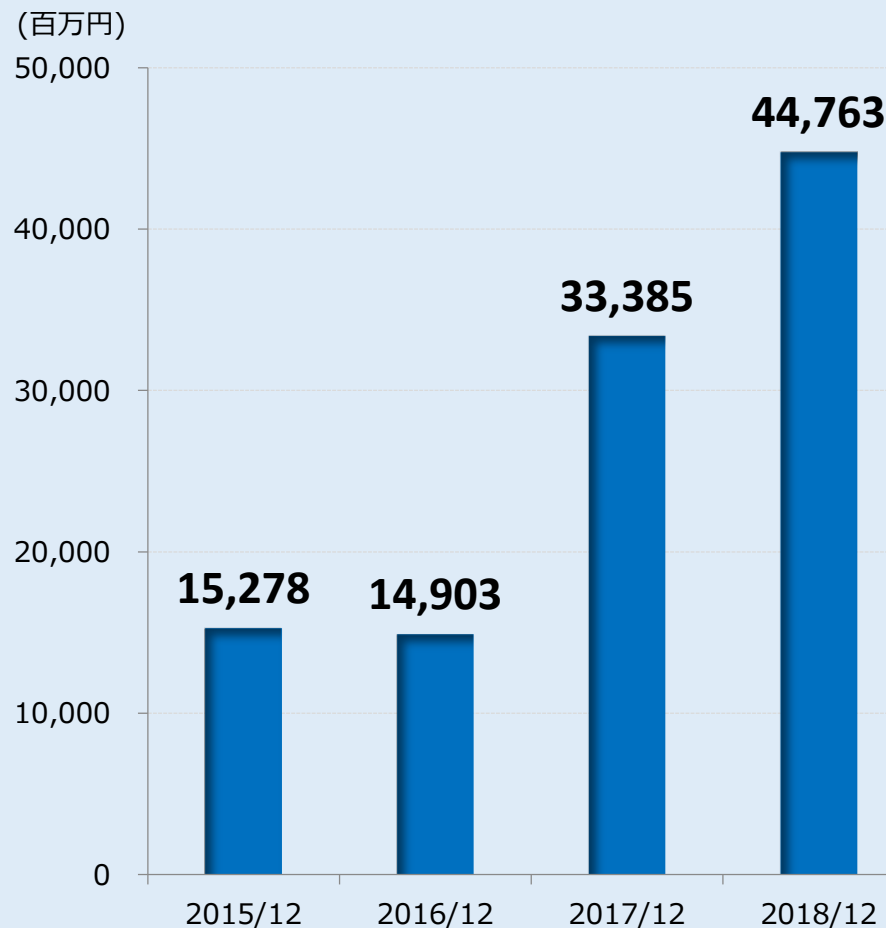
受注高・受注残高/売上高（年間推移）



受注高・受注残高の推移

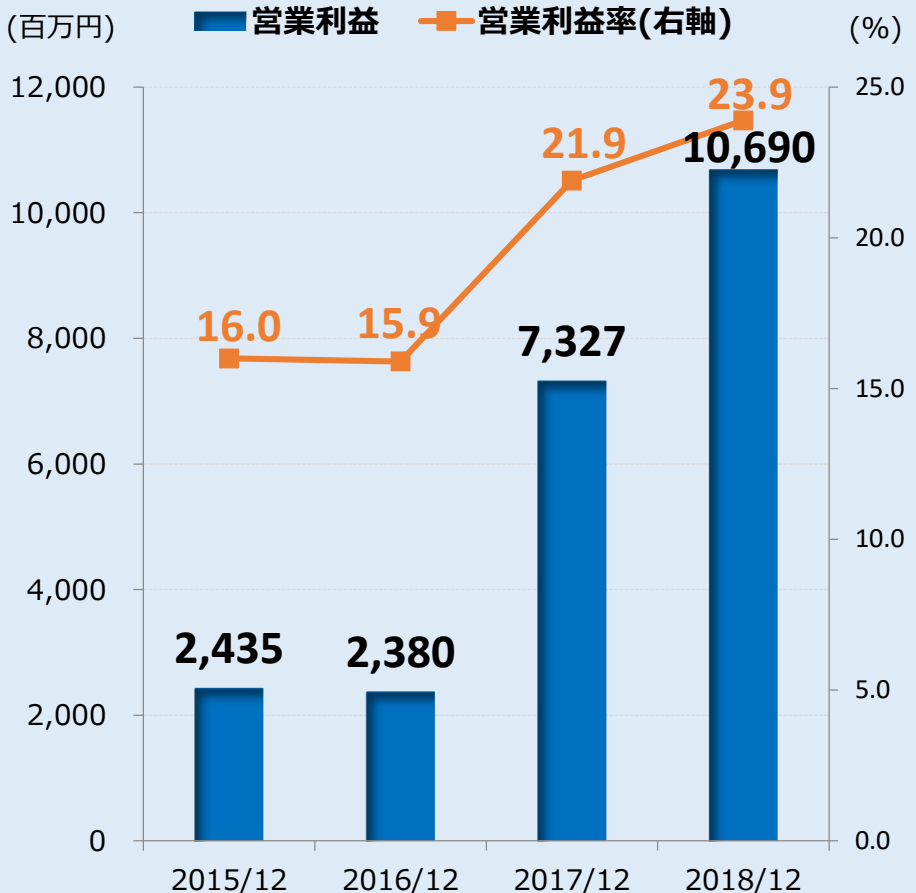


売上高の推移

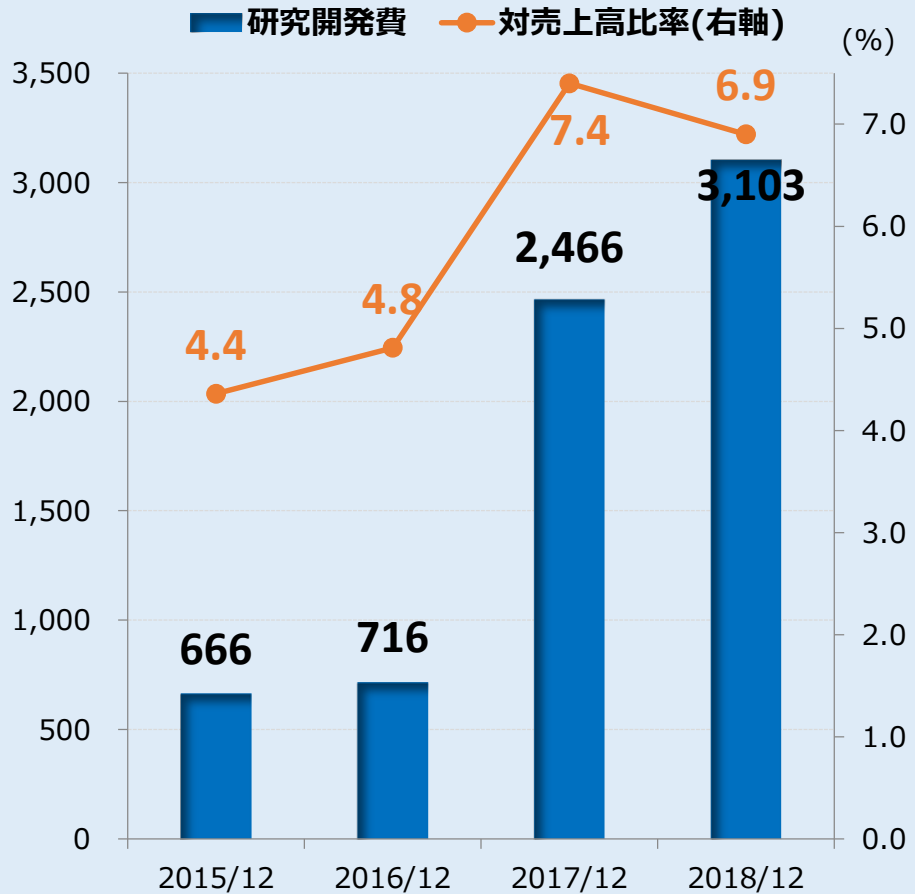


営業利益/研究開発費（年間推移）

営業利益の推移



研究開発費の推移



CFの状況



(百万円)

	2017年12月期	2018年12月期		主な要因
	金額	金額	増減額	
営業活動によるCF	4,695	9,572	+4,877	・当期純利益増加 ・前受金増加
投資活動によるCF	△2,768	△2,964	△196	・出資金の払込による支出
財務活動によるCF	12,446	△10,053	△22,499	・短期借入金の純減 ・配当金の支払
現金及び現金同等物に係る 換算差額	161	△707	△868	
現金及び現金同等物の増減額	14,536	△4,153	△18,689	
現金及び現金同等物の期首残高	5,357	19,893	+14,536	
現金及び現金同等物の期末残高	19,893	15,740	△4,153	

2019年12月期 業績予想



増収・増益を目指す。

(百万円)

	2018年12月期 実績	2019年12月期 予想	前期比
売上高	44,763	46,000	+2.8%
営業利益	10,690	11,300	+5.7%
(営業利益率)	(23.9%)	(24.6%)	—
経常利益	10,992	11,300	+2.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,745	8,400	+8.4%
研究開発費	3,103	3,900	+25.7%

1 光学薄膜製造装置事業での応用分野拡大を目指す。

- スマートフォンは、5G対応で、スマホメーカーニーズに応じ、光学薄膜技術の提供・新型装置の開発を加速する。
- 半導体・光学融合では、完成した新型水平スパッタ装置の本格的な拡販に取り組む。
- 車載は、車載カメラ、センサー、インパネ等への受注を見込む。日本を含む東アジアが主マーケット。
- 5G通信用BPFフィルター等への装置開発・販売を加速する。
- LEDは、新型DBR成膜装置により、発光効率アップでLED生産コストの削減に寄与し、受注増を計画。
- IoT、AIの進展に合わせ、光学薄膜以外の新技術を取得し、成膜性能の飛躍的アップ・応用範囲拡大を目指す。

2 中期的目標

- M&Aによる事業連結により、シナジー効果を発揮し、企業価値拡大を計る。
- 新技術・市場獲得・顧客ベース獲得のための出資・提携・買収を強化し、事業収益力の強化を計る。

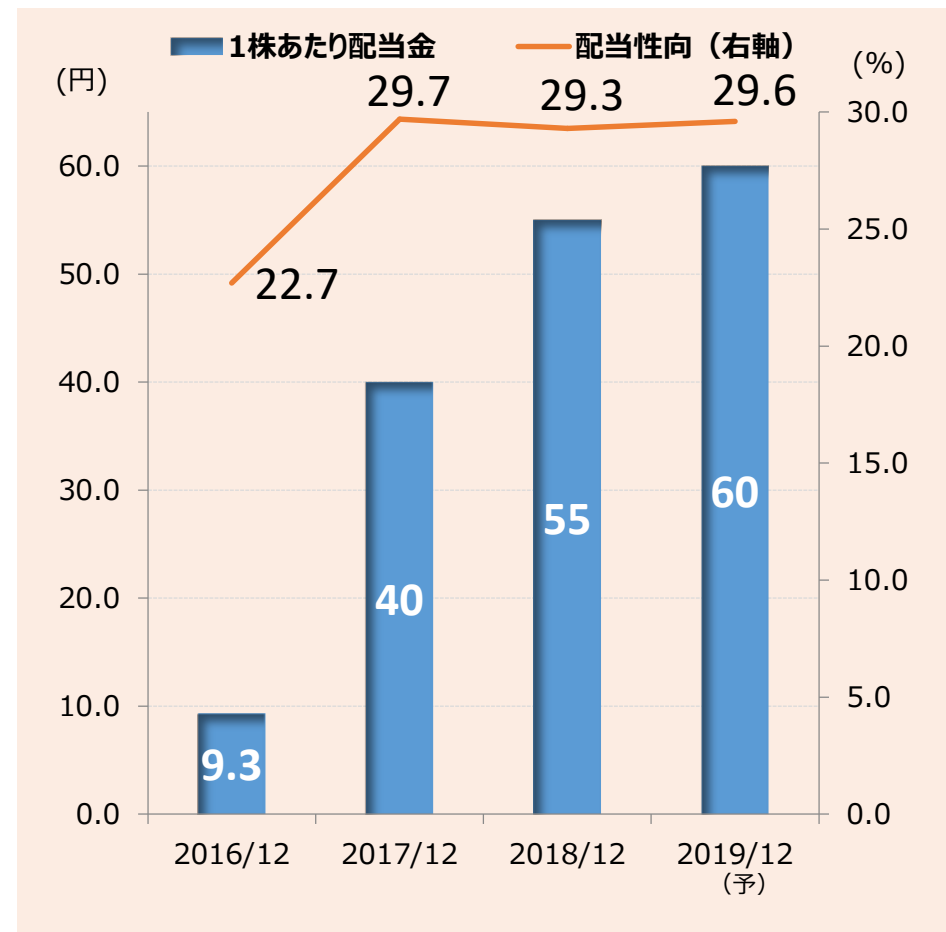
株主還元 配当

- 2018年12月期 配当 (55円) 、29.3% (配当性向)
- 2019年12月期 配当予想 (60円) 、29.6% (配当性向)

配当方針

研究開発投資、生産体制強化、新事業開拓等の必要な内部留保資金を確保しつつ、余力は株主還元を最大限実施します。

連結配当性向30%程度を目安に、
安定的な配当を目指します。



※ 2017年3月18日付で1:1,000の株式分割、及び同年10月13日付で1:3の株式分割を実施
2017/12期以前の1株当たり配当金は上記株式分割を反映し、遡及修正して表記

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2019年5月10日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp

TEL : 03-6635-9487